

## 4 大口径補修（熱硬化）… 特殊箇所での施工実例

### 状況

海岸沿いに敷設されているボックスカルバート1200×1000のクラック部分より、満潮時に多量の浸入水が確認され、その都度モルタルでの補修を行ってきたが、すぐに剥がれ落ちて浸入水が再発生するとのこと。



施工前(干潮時)



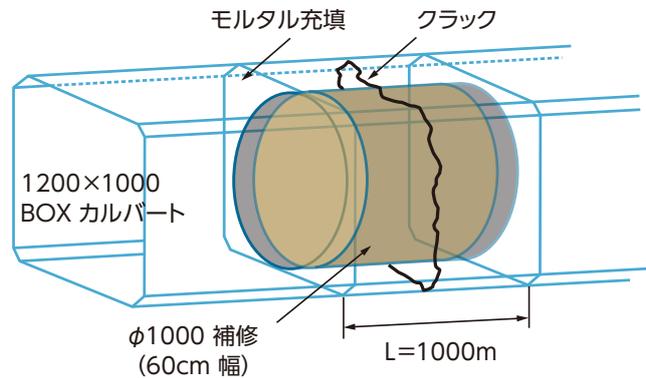
浸入水(満潮時)



クラック

### 対策施工例

クラック部分をモルタルで補修後、止水材の注入。通常はそのままモルタルによる表面仕上げとなるが、補修のために内径1000mmのポイド管を利用して、幅1mのモルタルでの補修充填を行い、内部に60cm幅の部分補修を施工することにより、モルタルの保護、および補強となる提案を行なった。



### <施工写真>

#### 下処理



止水材注入



注入完了



φ1000ポイド管を利用して型枠作成



モルタル充填中



モルタル  
充填完了

#### 補強工



完成